

一般社団法人
日本新聞製作技術懇話会
会報 (隔月刊)
VOL.49 No.1
2025.1.1
(通巻 287 号)
禁転載

CONPT

Conference for Newspaper
Production Technique-Japan

広報委員会編集
編集人 井上 努
東京都千代田区内幸町
日本プレスセンタービル
8階 (〒100-0011)
電話 (03) 3503-3829
FAX (03) 3503-3828
<http://www.conpt.jp>



目次

年頭のご挨拶	日本新聞製作技術懇話会 会長	清水 英則	3
	日本新聞協会技術委員会 委員長	伊藤 彰芳	4
新聞技術賞を受賞して			5
	朝日新聞社 統合編集システムプロジェクトサブマネジャー	黒田 周作	
	北海道新聞社 制作局システム本部システム委員	藤原 宏之	
製作技術研修会開催			7
JANPS in page2025 出展案内			8
新聞メディアの潮流 欧州報告(13)	在英ジャーナリスト	小林 恭子	10
第16回CONPT技術研究会			13
第4回年末全体会議開催			13
美味あっちこっち	第一工業	小溝 圭一	14
わが職場あれこれ	南日本新聞印刷 印刷部長	湯川 慎作	15
大谷MVP号外			15
会員名簿			16

●表紙写真提供：山梨日日新聞社・赤尾 聡氏「富士山」 ナカバ平展望広場（富士河口湖町）から

●表紙製版：(株)デイリースポーツ

●組版・印刷：(株)デイリースポーツ

年頭のご挨拶

創立50周年「大きな転換期」に挑む

日本新聞製作技術懇話会
会長

清水 英則



謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

昨年は年始に石川県能登半島を襲った地震災害、混迷を深める国際情勢、経済物価情勢と国民生活に影響を及ぼす多くのニュースが新聞紙面を埋めたましました。一方でネット、SNSの影響力はさらに強まり、情報発信規模は広まるばかりです。特に選挙イヤーといわれた昨年、日本においても国政、地方選挙を含めてSNS戦略が選挙戦に大きく影響したとされております。こうした社会情勢の変化により、結果的に新聞を中心とした既存メディアの存在感、価値についても改めて注目されようになったと感じています。日本新聞製作技術懇話会(CONPT)においても新聞発行を技術面で支えることを変わらぬ理念として事業活動に取り組んでまいりました。

*

CONPTが取り組んだ事業は開催見送りとなったJANPS2024の代替イベントです。第1弾が昨年11月に開催した「製作技術研修会」です。主に新聞社の下流製作工程の実務者を対象に、印刷工場を訪れ輪転機を中心とした実稼働機を見学、そしてメーカー・ベンダー側による合同セミナー懇親会を織り交ぜた2日間のイベントです。工場見学、セミナーによる情報の発信・共有はもちろんのこと、総勢100名を超える懇親会も大変有意義であった

との声をいただきました。新聞製作の中核を担う世代の方々が集い、前向きに情報交流をはかる姿を見て、今後の新聞業界に必要な新たなエネルギーを感じることができました。

第2弾が本年2月の「JANPS in page2025」です。新聞をはじめ幅広い業界に最新技術を発信したいと考えています。日本新聞協会技術委員会とイベント企画をする中で、従来のJANPSのような見本市的な情報発信を望む声が多数あがり、7年ぶりの開催を決めました。page展は公益社団法人日本印刷技術協会(JAGAT)が主催する印刷メディアビジネスの総合イベントです。今回は、その会場に「JANPSゾーン」を設け、18社が出展の予定です。page2025のテーマは「共奏」です。このテーマにふさわしく異なる協会が協力しあって新たなビジネスチャンスを創出できればと考えています。「製作技術研修会」、「JANPS in page2025」どちらも新聞業界の現状に即した最適イベントとして、大きな手応えを感じています。CONPTの新たな主幹事業として新聞社に技術情報を発信してまいりたいと考えています。

*

CONPTは今年で創立50周年を迎えます。その間、新聞業界を取り巻く環境も大きく変化してきました。CONPT会員社の事業環境、領域も大きく変化しています。そして、この変化は厳しさを増すばかりであることから目を背けることはできません。そして2025年が昨年の年頭に掲げました「前向きで大きな転換期」となるよう、会員各社そして新聞社の皆様とともに努めてまいります。

本年もよろしくお願ひいたします。

「新聞の使命」果たす強固な連携

日本新聞協会技術委員会
委員長

伊藤 彰芳



新年明けましておめでとうございます。昨年はさまざまな難題と向き合いながら活動してまいりましたが、早いものでこうして無事に年始を迎えご挨拶をさせていただいていることに感謝いたします。

年の初めから暗い話は避けたいとは思いますが、新聞業界を取り巻く環境は、ここ数年でさらに悪化しています。発行部数や広告収入の減少、資材の高騰など、新聞社は厳しい現状に直面しています。一方、読者の側では、若年層の新聞離れが常態化し、情報収集という意味ではもはや生活の中心を獲得している「各種ソーシャルメディア」の利用が社会現象にもなっています。このような状況下において、新聞の役割はますます問われていると感じます。新聞の信頼性、多様性、そして情報伝達の使命を改めて認識し、その役割を果たしていくことは我々業界の責務の一つでしょう。

*

そんな中で昨年突如報じられた輪転機メーカーの新聞事業撤退のニュースは、一夜にして列島を駆け巡り激震が走りました。私たち新聞社側は、当該メーカーに誠意ある対応を求め、任意団体として「連絡会」を設立し対話を始めました。現在も進行中で時間を要する案件ですが、ユーザーである我々新聞社が新聞発行・ニュース報道を安心して継続できる体制を整えてもらうよう働きかけてい

きます。一昨年、ブラケットメーカーが撤退を表明した際にも業界は騒然となりましたが、残る1社が増産体制を検討するなどしてくれたことには大変感謝しております。まさしくALL CONPTで新聞業界を支えてくれていることを実感しました。

*

また、今期開催しているJANPS代替イベントも明るい話題の一つとして捉えています。下流は11月に会員社セミナー、読売鶴見工場見学を実施いたしました。募集開始から早々に定員に達してしまう大好評ぶり、中でも読売鶴見工場見学では、新聞技術賞を受賞したAPP（オートパイロットプリンティング）はとりわけ注目の的だったと思われる。各社の実務者が集まるイベントは依然として需要が高く、新聞社の技術者同士が情報交換を重ねることは、当業界の活性にもつながると感じています。

上流系のイベントは＜JANPS in page2025＞として、2月に東京・池袋のサンシャインシティ展示ホールにて開催されます。こちらも全国の技術者たちに来場いただき、見るもの触るものすべてから「知」を持ち帰り、新たな創造に向けて各社で活用していただけることを祈っています。なお、pageを主催するJAGAT（公益社団法人日本印刷技術協会）様には、この度の共催に快くご協力いただきましたこと、この場を借りて心より感謝のうえ御礼申し上げます。

年々厳しさを増す当業界ですが、日本新聞協会は、CONPTが会員社相互の連携を一層強化し、我々ともに新聞製作について永続的に力を貸していただくことを期待しています。

新聞技術賞を受賞して

「朝日・道新による統合編集システムの共同開発」

朝日新聞社 統合編集システムプロジェクト
サブマネジャー

黒田 周作

北海道新聞社 制作局システム本部
システム委員

藤原 宏之

朝日新聞社(以下、朝日)と北海道新聞社(以下、道新)による統合編集システムの共同開発が、2024年度の新聞技術賞を受賞した。

大変名誉ある賞をいただき、両社のプロジェクトを代表して御礼申し上げます。

1. プロジェクトの目標

2020年2月25日、朝日と道新は統合編集システム共同開発のパートナーとなることに合意した。

共同開発プロジェクトでは、開発ベンダーに富士通を選定し、「紙面だけでなくデジタルを含む複数のメディアに配信できるCMSを構築する」「個社カスタマイズを廃し、業界内で共有可能な汎用的なシステムにする」などの目標を掲げた。

2. 開発したシステム

朝日・道新の統合編集システムでは、「Amazon Web Services (AWS)」上に構築し、システム全体でサーバレスな構成を実現した。その主要機能は「予定管理」「素材管理」「パブリッシュ機能」「アーカイブ」の4つで構成されている。

予定管理では、取材前にシステムに「テーマ」を登録する。テーマにはそのコンテンツの要旨や完成予定時刻などの情報を持つ。テーマを時系列表示するカレンダー画面(図1)では、その日のコンテンツの発生状況を共有することができる。

取材が進み、そのテーマを構成する素材の



図1. カレンダー画面

全体像が固まったら、テーマ配下に「出稿予定」を登録する。出稿予定とは、どんな内容の素材を見出しと要旨、いつ(登録予定日時、リリース予定日時)、どれくらいの分量で(行数、写真の枚数)、作成する予定なのかを共有するためのものである。記者やカメラマンは出稿予定に記事本文や写真を紐付けることで、素材を仕上げていく。

素材管理は、テーマ毎に素材や出稿予定をリスト表示できるテーマ素材一覧画面(図2)と、記事や画像、動画などの素材を作成するエディタ機能で構成される。エディタ機能では、素材の新規登録だけでなく、登録後の直し(推敲)とリリース(素材完成)、校閲までの業務運用をすべてオンラインで実施できる。さらに、朝日が開発したAI要約機能「TSUNA」と連携し、見出しの自動生成と本文要約の機能も提供する。



図2. テーマ素材一覧

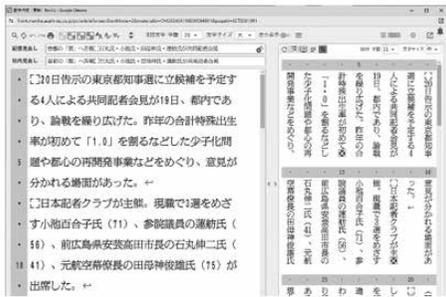


図3. 記事エディタ

記事エディタ(図3)では、紙面とデジタル双方に発信するコンテンツ製作を意識し、横書きを採用した。縦書きで新聞原稿の体裁や分量を確認したいというニーズには、紙面レビュー機能を設けて応えている。

パブリッシュ機能は、完成した素材を、紙面・デジタルに送り出す役割を担う。

デジタル配信するコンテンツを作成するためには、完成した記事や画像、動画などのリリース素材を、テーマ素材一覧でコンテナ化する(素材のグルーピング)。コンテナの編集画面では、コンテナ内の素材の並び順を指定したり、ペイオオールや関連リンクを挿入したりすることができる。

紙面状況画面では、複数の面版に割り付けられた素材の状況を俯瞰(ふかん)し紙面のラインナップを把握できるだけでなく、組版で出力された大刷り(紙面のゲラ)のPDFデータを参照することもできる。紙面構成の検討から仕上がりの確認まで、紙面製作の各工程を支える重要な画面だ。

アーカイブでは、紙面掲載記事と切り抜きイメージ、紙面イメージやリリース画像・動画に加え、デジタル配信記事の蓄積管理にも対応し、検索参照のためのユーザインタフェースを提供している。

旧システムで蓄積してきたデータも移行し、過去紙面から現在のデータまで一気通貫で検索できるデータベース機能を実現した。

3. ペーパーレス運用の実現

統合編集システムでは、素材のリリースや

直し、コンテナ配信、大刷り出力などのアクションが発生したとき、担当者の操作デバイス宛にPUSH通知を発行する。通知機能の充実、運用フローのペーパーレス化に大きく貢献した。

また、共同通信社の素材の仕分け運用をペーパーレス化するために、受信した共同メモからテーマと出稿予定を自動登録する機能を設け、テーマ素材一覧で自社素材と分け隔てなく管理できるようにした。また、差し替え素材は製品IDをキーにリビジョンアップし、直しとして上書き更新できるようにした。

運用を開始して数か月経つが、特に共同素材の印字運用を廃止した道新では、**およそ20万枚/月(6700枚/日)**の削減効果が確認されており、ペーパーレス運用を目指した取り組みは成功したと言えるだろう。

4. 業界の共通システムへ

朝日・道新の共同開発プロジェクトでは、「業界内で共有可能な汎用的なシステム」を目指し、なるべく個社カスタマイズを廃し、両社に必要な機能だけを搭載した業界スタンダードな汎用システムを完成させた。

複数の社が同じシステムを使い続けることで、将来的に利用社間でのさまざまな協力関係やシナジーが生まれていくことに期待したい。以下に想定するメリットを挙げる。利用社が増えていけばその効果はさらに向上していくだろう。

システム共通化のメリット

- システムのエンハンスにかかるコストを分担できる
- システム保守や監視、維持管理を共同で行えば、ランニングコストを軽減できる
- 新たに導入する社の初期コストを安価にできる
- 利用社間でシステム運用のノウハウを共有できる
- 同じデータ形式でコンテンツを融通しやすくなる

実機視察・情報共有 高い評価

製作技術研修会を開催

日本新聞製作技術懇話会は、日本新聞協会との共催で、2024年11月14日と15日に製作技術研修会を実施した。新聞社関係35社61名、CONPT会員社18社34名、読売新聞東京本社・ミナト5名、新聞協会2名、事務局3名が参加した。

開催の背景には、新聞協会の情報技術部会や印刷部会との意見交換で、「パネルや動画ではなく、実際の生産設備や機器を直接見たい」との要望が寄せられていた。これを受け、新聞印刷工場の現場でメーカー担当者が自社の設備を説明し、その後、実際の印刷を見学する研修会を計画した。



ニュースパークを訪問

研修会初日には、横浜市のニュースパーク（日本新聞博物館）を訪問し、常設展示と企画展示を見学した。その後、CONPT会員8社によるセミナーを開催。参加メーカーは、自社の最新技術やシステムについて詳しく説明し、読売新聞東京本社からは翌日の鶴見工場見学に関する事前説明が行われた。また、セミナー終了後には、立食形式の懇親会を開催、参加者間で交流を深めた。

2日目には、読売新聞鶴見工場を視察した。小林見工場長によるプレゼンテーションでは、AIを活用した自動運転機能「Auto-Pilot Printing（APP）」の導入による作業効率化や損紙削減の取り組みが紹介された。2022年度



読売新聞鶴見工場を見学

の新聞技術性を受賞したAPPは、印刷パターンや資材に最適な調整値をAIが自動設定し、スキルレス化を実現するシステムである。運転開始時から検紙速度（毎時6万部）までの加速を自動化し、損紙部数の削減が図れる。その後、3班に分かれて工場内を見学し、メーカー10社（計21名）の担当者が自社設備機器について説明を行った。最後に、夕刊初版の印刷で、APPによる自動運転や良紙自動判定を見学した。

研修会終了後に実施したアンケートでは、新聞社系の多くの参加者から「大変満足した」、「満足した」との評価を得た。特に、読売新聞鶴見工場見学が印象に残ったとの声が多数寄せられた。また、見学時間や質疑応答時間をもう少し確保するよう改善点も提案された。



最新技術の情報共有だけでなく、業界内の連携を深める場ともなった今回の製作技術研修会は、参加者にとって非常に有意義で、業務に役立つ内容であったと感じている。今後も新聞業界にとって価値ある研修会を企画し、業界内の情報共有と交流を深めていきたい。

本研修会の開催に際し、多大な協力をいただいた読売新聞東京本社と工場を運営するミナトの皆様には、心より感謝申し上げます。

（事務局）

出展案内 JANPS in page2025

JANPSが新しいスタートを切ります。新聞だけでなく幅広い業界に向けて最新の技術情報を発信。「JANPS in page2025」として、「新しい時代に向けたDX 製作技術から総合技術へ」をテーマに、2月19日から3日間開催します。その出展内容などの一端を紹介します。

*

朝日プリンテック

▽新聞用・商業用のローラ再生装置と新聞用ブランケット復活装置につき、動画にまとめ展示します。是非ともご来場ください

*

イワタ

▽『フォントは新聞社と読者をつなぐインターフェース』をテーマに、フレキシブルなフォントソリューションを提案します

*

インテック

▽最新テクノロジーを活用し、幅広い分野でステークホルダーとともにITの可能性を探求し、事業創造に取り組みます

*

コダック

▽日本国内で製造している無処理版により、安定品質・安定供給に努め、お客様の新聞製作をサポートします

*

システマック

▽予備部品やメンテナンス情報などを業界全体で共有できるプラットフォームを提案します。

*

ジェニファースoft

▽WebアプリケーションとKubernetesの可視化ツールを出展します。システムの状況把握や性能問題に役立ちます。是非ご覧ください

*

西研グラフィックス

▽新聞端折れ検知システムなどの新製品をご紹介します。
▽GAME BREWのクラフトビールを冷やして、皆様のご来場をお待ちしております！

*

SEOUL SYSTEM CO.LTD.

▽ソウルシステムは39年の歴史を持つ、メディア向けコンテンツ管理システム専門の企業です。新聞制作やニュースサイト構築を展示説明します。

*

東芝デジタルソリューションズ

▽情報の伝達手段が多様化する今日、報道機関の取材・編集・編制業務の効率改善を東芝AI活用報道基盤が支援します

【JANPS in page2025 出展マップ】

(4F展示ホールB)



新聞を支えるDX 出展案内

*

日本電気

▽従来の新聞制作システムのみならず、AIを活用した最新技術等、お客様のDX推進に貢献するソリューションをご提案いたします

*

ネクステップ・ソリューションズ

▽新聞社様向け会員管理・課金システム、社内・社外向けデータベースシステム、NIEデジタル教育支援システムを紹介します

*

フジオー産業

▽新聞印刷のSDGsに貢献する事業を半世紀。輪転機の転売・解体撤去と輸入インキ販売、印刷現場の産廃収集運搬業務と再生事業などを紹介します

*

富士フィルムグラフィックソリューションズ

▽新聞印刷の品質向上という新聞社と同様の目標に向けた刷版開発の遍歴と現在の研究開発を紹介します

▽デジタル関連の最新情報の発信します

*

フューチャーアーキテクト

▽メディア業界向けのコンテンツ管理サービスGlyphFeeds（グリフィード）と、新聞業界における支援実績をご紹介します

*

HOUSEI

▽新聞業界のDXを加速！システム更新時のコスト削減と業務効率化をサポート。

▽CTSやAI技術を活用したCMS等のツールをご紹介します

今回のJANPSは公益社団法人日本印刷技術協会(JAGAT)が主催するpage展とジョイントした新しい試みです。同展は印刷メディアビジネスの総合イベントとして毎年開催され、今年は「共奏」をテーマにしています。

*

読売新聞東京本社

▽工場から販売店までの輸送過程を可視化する新聞輸送システムと、購読者情報を一元的に管理するYCクラウドをご紹介します

*

読売システック

▽創立20年を迎えるにあたり、読売システックが歩んできた歴史とその中で生まれた定点カメラや画像送信技術を展示します

*

日本新聞製作技術懇話会

▽日本新聞製作技術懇話会のさまざまな活動内容をパネルで紹介します

▽日本新聞協会の2024年度新聞技術賞をパネルで紹介します

◇新しい時代に向けたDX

製作技術から総合技術へ◇

【会期】2月19日(水)～21日(金)

【会場】東京・池袋サンシャインシティ

日本新聞協会・日本新聞製作技術懇話会



「ニュースの未来」今、何が問題なのか

在英ジャーナリスト
小林 恭子

◆英国の上院委員会が報告書

前回の本稿では、長い歴史を持つロンドンの夕刊紙「イブニング・スタンダード」が9月末から週1回の発行になる話を伝えた。部数の激減や負債が膨み、発行頻度の減少を決断せざるを得なくなった。日本同様に英国でも紙媒体の新聞の発行部数が下落し続け、デジタル版での利用がより常態化している。

昨年11月25日、英国のニュース界の現状と対策を提案する報告書「ニュースの未来」が出た。上院の通信・デジタル委員会が国内の専門家やメディア関係者から聞き取り調査を行い、米国でIT企業大手に取材した結果をまとめた。概要を紹介したい。

【全国紙に比べ地方は苦戦】

英国のメディア界は政治信条を明確にする新聞、ニュース報道の不偏不党が義務化されているBBC及び主要放送局、新興のネットメディアなどによって構成され、活気ある市場となっている。しかし、財政状況は心もとなく、新聞の発行部数も激減している。

こうした中、全国紙は市場の変化に適応し、電子版有料購読者の増加、ポッドキャスト、国際報道の拡大、イベント開催などで生き延びているのに対し、地方紙は窮状にある。2010年からの10年間で地方紙市場の広告収入は70%減少し、財政不安のために変化に応じた投資ができない場合が多い。

地方局もオンラインでの視聴が増加する中、放送時の視聴者獲得に苦戦している。約400万人が地方に特化した新聞、ニュースサ

イト、ラジオ局、テレビ局がない「ニュースの砂漠状態」に置かれているという。ちなみに、英国の人口は日本の半分強の7600万人で、有権者は約4800万人である。

商業放送大手ITVやチャンネル4はニュース番組の制作費用をほかの番組から得た収入で補い、衛星放送スカイテレビのニュース部門も赤字と噂されている。大手新聞発行元ニュースUKが所有する新興テレビ局TalkTVは、放送時での視聴者獲得に苦勞し、昨年3月からオンラインのみでの番組配信に切り替えざるを得なくなった。一方、音声配信サービスのポッドキャストからの収入は大きく伸びているが、メディア界全体で見るとまだ小さな存在だ。

【メディア環境の二極化】

以上の状況の中で、「メディア環境の二極化現象」が起きていると専門家の一人が報告書の中で指摘している。

教育程度が高い人や高級紙の購読料を払える人が質の高い報道に触れることができる一方で、低所得層やより感情に訴えかける報道が多い大衆紙を読む人との間で受け取る情報の格差ができてしまう。

著名ブランドが「独り勝ち」する現象も起きている。例えば、新聞の有料購読者の41%は高級紙「タイムズ」か「テレグラフ」の購読者である。報告書は政府の財政支援の必要性を呼びかけている。例えば地方紙への事業税の課税免除、公的広告の発注増加、イノベーションを促進するための支援基金の発足などを提

▽新聞有料購読者の41%は「タイムズ」か「テレグラフ」



英テレグラフ紙のウェブサイト

英タイムズのウェブサイトの画面

案している。

【BBCによる中小支援を提案】

英国の公共放送BBCは、約10年ごとに更新される君主による特許状によって、その存立が定められている。現在の特許状は2027年末で期限切れとなるので、まもなく特許状更新のための国民的議論が行われる。この時、BBCの目的・役割が改めて定義されることになるが、報告書はBBCの目的の1つとして、地方ニュースの提供者と戦略的提携関係を結ぶことを提案。地方メディアにBBCの記者を派遣する「ローカル・デモクラシー・リポーターリング・サービス」を大手地方メディアばかりではなく、中小のメディアにも拡大させ、見習い記者制度を地方メディアにも提供する。

BBCが視聴世帯から一律徴収する受信料を使って新たな技術に投資し、生成AIを使ってのニュースツールを開発することも提案している。これによって、信頼がおける情報への国民のアクセスを改善することを目指す。受け取る情報の二極化現象の解消や地方メディア市場を活性化するための役割をBBCに求めている。

【著作権とも絡むAI】

AIの利用について、報告書は委員会の米サンフランシスコでの視察内容を記してい

る。米パプレクシティAI社によると、キーワードを入力する形での検索からAIツールを使って会話を通して検索する形への移動が発生しているという。メタ社が開発するウェアラブル技術(スマートグラスなど)の進展によって、後者による検索がスマートフォンなどのデバイスを使いながら簡単に実施され、広がっていく見込みだ。

利用者がAIツールに問いかけることによって情報を見つけるようになる時、AIツールは「大規模言語モデル(LLM)」(大量のテキストデータを使ってトレーニングされた自然言語処理のモデル)から回答を提供する。どのようなアプリになるにせよ、検索結果にニュースサイトのアドレスが入らなくなるのではと委員会は懸念する。また、利用者はAIによる要約文書を読んで事足りりとする場合もあるだろう。ニュースサイトまで行かないことになる。

著作権についても懸念が出ている。AI企業側はAIのトレーニングのためにテキスト、音声及び動画情報を機械に「読ませ、学習させる」ことは「合法」と主張するが、英国の著作権関連の法律によれば著作権物の使用には許可が必要であり、許可なく商業目的で使うことは違法だ。機械学習をさせる目的でAI企業とニュース発行者とが提携関係を結んだ場合でも、「学習」の期間が終わったらこの関

係が解消されるのか、永遠に続くかが不明だ。英国としてはAIの発展において世界でもトップクラスに位置する必要がある、政府が著作権関係の枠組み作りに尽力することが求められている。

【組織的な虚偽情報への対応】

英国の国家サイバーセキュリティセンターの元トップの分析によると、意図的に流される「虚偽情報」(ディスインフォメーション)や確認不足や勘違いなどが原因の「誤った情報」(ミスインフォメーション)の現状は過去10年間で大きく変貌を遂げたという。「国際競争の激化、政治的再編成、新技術の普及によって、敵対勢力が情報環境を操作し、偽情報を組織的に拡散させるための動機、機会、手段が増加している」。ここで問題になっている「虚偽情報」とは国家あるいは政治的意図を持った組織が広めようとする情報である。

ここでも問題視されるのがAIである。報告書は、「ほんの2-3年で」より完成された「自律エージェント(automatic agent)」が使われることへの懸念を表明する。「自律エージェント」とは、人間の直接の介入なしに自らの判断で行動やタスクを実行するソフトウェアあるいはシステムを指す。環境からの情報を受け取り、それをもとに独立して決定を下していく。これが虚偽情報の拡散に使われる可能性がある。

2023年9月のスロバキア総選挙では、投票直前に親米の野党代表が「選挙に勝つためには(疎外階層の)ロマ族に金を与えなければならない」と語った音声ファイルが流れ出した。偽物であることが判明したが、政権与党の勝利に大きな影響を及ぼした。ただし、メディア組織が偽情報の流布を過度に報道し、「情報空間は信頼できない」という印象を市民に与えるという指摘もあった。

また、委員会に意見を寄せたメディア専門家や実務家によると、プラットフォーム側

による偽情報を拡散させないためのアルゴリズムの変更やファクトチェックの試みは、何を不適切な情報あるいは偽情報とするかの点で問題があり、行き過ぎると「言論の自由の侵害になる」場合もあると指摘。ニュースUK社の経営トップは「情報を検証するのがジャーナリストやデスクの仕事だ」「第3者が入ってきて、真偽を判断するのは居心地が悪い」と述べている。

報告書は政府に対し、いくつかの優先事項を提案している。

- ①持続可能な報道組織の価値を明確に認識する
- ②報道機関との協力を強化する、特に選挙時での外国からの干渉にどのように対応するかを決めておく
- ③敵対勢力に対し強力な抑止体制を取る。例えば敵対国のインフラを劣化させるためにサイバー攻撃を行う
- ④学校でメディアリテラシーの授業時間を増やす
——などだ。

英国のディスインフォメーション対策は主として科学・イノベーション・技術省が中心となるが、ほかの省庁や官邸、情報機関組織などが協力する。また、米英など5か国による機密情報共有の枠組み「ファイブアイズ」を含め、国際機関と協力しながら情報のモニタリング、リサーチなどを行っている。英国では7月に労働党による新政権が成立したが、現在、国防戦略の見直し中で、ディスインフォメーション対策の位置づけが目だ。

昨年はガザ紛争、ウクライナ戦争が継続し、アジアでは年末に韓国で戒厳令が実行の一手前まで行った。中東シリア・アサド政権の崩壊でさらに世界の混迷が深まっている。質の高い、正確な情報の重要性は増すばかりだ。

生成AIでビジネス変革

——第16回CONPT技術研究会



日本新聞製作技術懇話会は、2024年11月8日に第16回CONPT技術研究会を開催した。「生成AIでビジネス変革を加速させる、業務改善アプリケーション開発」をテーマに、HOUSEI株式会社DX推進室長執行役員河田京三氏が講演した。新聞社関係15社20名(内オンライン13名)、CONPT会員社7社17名(内オンライン11名)の37名と事務局4名が聴講した。

【講演の要旨】2022年後半より始まった生成AI革命により、企業での生成AIの導入と活用が求められる。しかし実際には、活用例が少ないのが現状で、その一因として企業内

に蓄積された「ナレッジ」を生成AIに適切に連携できていない点が挙げられる。「ナレッジ」とは、企業内に蓄積されている文書やデータのこと、生成AIがより正確な回答を行うための基礎となる情報である。

生成AIの課題のひとつに「ハルシネーション」(虚偽情報の生成)があり、この解決策としてRAG (Retrieval-Augmented Generation) が注目されている。RAGとはLLM (大規模言語モデル)にナレッジ(知識ベースやデータベース)を参照させることで、正確で信頼性のある回答を生成する技術である。この仕組みにより、生成AIの回答精度を高めることができる。

また、RAGはモデル自体を再トレーニングする必要がなく、ナレッジの更新のみで最新情報を反映できるため、低コストかつ高頻度での情報更新が可能である。

RAG導入にあたっては、社内のすべてのデータをナレッジ化するのではなく、必要な情報を取捨選択し、前処理を施すことが重要である。さらに、生成AIの精度についても、最初から90%以上を目指すのではなく、まずは実用的な70%程度の精度を目標とすることが現実的といえる。

第4回年末全体会議を開催

日本新聞製作技術懇話会

一般社団法人日本新聞製作技術懇話会は、第4回年末全体会議を12月10日に日本プレスセンタービル9階の日本記者クラブ・会見場で開催した。来賓として、日本新聞協会から技術委員会の伊藤彰芳委員長、編集制作部の勝田洋人部長、桜井哲也技術・通信担当主管の3氏を迎えた。会員社からは23社33名(オンライン参加2名を含む)が出席した。

清水会長は開会挨拶で、「CONPTは来年、創立50周年を迎える。CONPTの事業を安定



的に継続することが重要である。引き続き、会員社の増加を最優先課題とし、新聞協会をはじめとする皆様のご支援を得ながら、われわれの使命を果たすべく取り組んでいきたい」

高尾ビールタップルーム（東京・高尾）

東京都心から電車で1時間ほど、高尾山（標高599m）の登山客で密かに人気のある、私の地元の「高尾ビール」を紹介します。

高尾ビールは小規模ながら何種類ものビールを醸造しています。読者の皆様のように、やさしく上品で、遊び心もある飲み口が特徴です。一口飲むとリフレッシュ。気持ちが落ち着いたその瞬間…あなたの心身は高尾山の自然と同化していることでしょう。

イチ押しのビールは定番の「Oh! Mountain」です。IPAと呼ばれるスタイルで、口に含んだ瞬間はパンチが強め。普段のビールに比べると味が濃く感じます。しかし、フルーティーな風味もあるため飲み口よく、スルスルと杯を重ねてしまいます。

生ビールを提供している駅前のタップルームは、JR高尾駅北口から徒歩1分で土曜日のみ営業。窓際の席でぼんやりしながらでも、カウンターで高尾ビールのスタッフ

美味あつちこつち



駅舎を眺めながら、ゆったりビールを

と談笑しながらでも…そこには、ゆったりとした「高尾時間」が流れています。

高尾山麓では缶ビールを扱っている店もあります。緑のにおいや四季の自然を感じながら飲むのもまた格別な時間です。高尾山観光の際はぜひ見つけてください。

第二工業
小溝圭一

と語った。

来賓挨拶で伊藤委員長は「CONPTの皆様には、新聞制作と印刷業務の安定運用に多大なご協力をいただき、心から感謝している。来年も引き続きご支援をいただけるようお願いしたい」と述べた。

勝田部長は「新聞を取り巻く環境が大きく変化する中で、次々と生まれる新たなニーズを実現するには、メーカーの皆様の優れた技術力が欠かせない」と挨拶した。

2024年4月から11月までの事業中間報告として、清水会長による全体報告の後、評議委員会、クラブ、企画、広報の3委員会、および予算執行状況の報告が行われた。決議事項は特になかった。

その後、懇親を深めるため立食形式の懇親会が開かれ、向江一人クラブ副委員長の中締めでお開きとなった。

CONPT 日誌

- 11月14日(木) 製作技術研修会～新聞博物館見学、セミナー、懇親会～（於日本新聞博物館、横浜桜木町ワシントンホテル、新聞社関係36社66名、新聞協会2名、CONPT会員社18社34名、事務局3名参加）
- 15日(金) 製作技術研修会～読売新聞・鶴見工場見学～
- 18日(月) 企画委員会(出席6名)
- 21日(木) 広報委員会(出席6名)、クラブ委員会(出席9名)
- 26日(火) 第27回理事会並びに評議委員会(出席11名)
- 12月10日(火) 第4回年末全体会議(於日本記者クラブ・会見場、来賓3氏、会員社23社33名出席)
第28回理事会(出席者9名)
懇親会(日本記者クラブ・大会議室・29名参加)

あれ
これ
わが職場

桜島を目の前に！

南日本新聞印刷 印刷部長 湯川 慎作

南日本新聞印刷は2009年4月に設立され、南日本新聞と受託紙5紙を印刷しています。2024年3月まで鹿児島市にある本社工場、本社工場から南へ8kmほどのところにある南栄工場、霧島市の国分に1工場の3工場4セット体制で運用していました。本社工場の2セットの輪転機（ゴス製）が稼働23年、国分工場の輪転機（三菱製）が25年をむかえ、本社の1セットを更新し国分工場は閉鎖となり、2024年4月から2工場3セット体制となっています。この2つの工場は南北600kmと縦に長い鹿児島県の新聞を印刷しています。

南日本新聞本社は、鹿児島市内の海に近いところにあり、その本社ビルの12階に社員食堂があります。そこからの景観は、天気の良い日には北の方には霧島連山、南は薩摩富士と呼ばれる開聞岳を望むことができますが、なによりも錦江湾を挟んで真正面に、桜島を手取るように見ることができます。日の出は桜島越しに上がり、夕日に映える桜島は真っ赤に彩られ、1日の中でもいろいろな表情を見せてくれます。また冬場の雪化粧した桜島は本当に美しい姿を見せてくれます。そんな桜島も噴煙を上げて火山灰をまき散らします。風向きによっては鹿児島市街にも灰が降ります。そんな厄介な火山灰でも、最近はいろいろなものに活用しています。特に魚干物の灰干しというのがあり、灰が魚の臭みを取ってくれるとのこと、とても美味です。

百聞は一見に如かず。ぜひ、勇壮な桜島におじゃったもんせ。



ファイナーレは「MVP」



〈岩手日報が号外、都内でも配布〉

◎…岩手日報「大谷MVP」号外がCONPT事務局に届けられました。号外は11月22日、約4万3000部を印刷、岩手県内の盛岡、花巻、北上、奥州4市に加え東京・有楽町でも配布。今回は広告を含めた4ページで、中面の見開き写真が圧巻です。23日付朝刊と号外のセット販売も実施したとのことです。

◎…岩手県奥州市の出身の大谷選手は今

季ドジャースに移籍して、「50本塁打・50盗塁」を始め数々の記録を達成、指名打者専任の選手で初めて最優秀選手(MVP)に選出されました。また、2年連続3度目の受賞ということで、今季の華やかなファイナーレとなりました。二刀流復活か—という来年も、日本を明るくしてくれる大谷選手の活躍を期待しています。(事務局)

日本新聞製作技術懇話会 会員名簿 (33社) 2025年1月現在

社名	〒番号	所在地
株イワタ	101-0032	東京都千代田区岩本町3-2-9
株インテック	135-0061	東京都江東区豊洲2-2-1 豊洲ベイサイドクロスタワー
株金陽社	136-0082	東京都江東区新木場1-1-1王子木材緑化ビル1階
コダック(同)	140-0002	東京都品川区東品川4-10-13KDX東品川ビル
サカタインクス(株)	112-0004	東京都文京区後楽1-4-25 日教販ビル
株システマック	520-2277	滋賀県大津市関津4-772-17
清水製作(株)	108-0023	東京都港区芝浦3-17-10
ストラパック(株)	221-0864	神奈川県横浜市神奈川区菅田町2800
西研グラフィックス(株)	842-0031	佐賀県神埼郡吉野ヶ里町吉田135
第一工業(株)	335-0002	埼玉県蕨市塚越5-37-16 水工ビル
椿本興業(株)	108-8222	東京都港区港南2-16-2 太陽生命品川ビル30階
株椿本チエイン	108-0075	東京都港区港南2-16-2 太陽生命品川ビル17階
DICグラフィックス(株)	103-8233	東京都中央区日本橋3-7-20 ディーアイシービル
東京インキ(株)	114-0002	東京都北区王子1-12-4 TIC王子ビル
株東京機械製作所	108-8375	東京都港区三田3-11-36 三田日東ダイビル6階
東芝デジタルソリューションズ(株)	212-8585	神奈川県川崎市幸区堀川町72-34 ラゾーナ川崎東芝ビル5階
東洋インキ(株)	173-0003	東京都板橋区加賀1-22-1
東和電気工業(株)	104-0032	東京都中央区八丁堀1-7-7 長井ビル6階
ニッカ(株)	174-8642	東京都板橋区前野町2-14-2
日本電気(株)	211-8686	神奈川県川崎市中原区下沼部1753
日本アイ・ビー・エム(株)	103-0015	東京都中央区日本橋箱崎町19-21
日本新聞インキ(株)	210-0858	神奈川県川崎市川崎区大川町13-8
日本通信機(株)	270-1198	千葉県我孫子市日の出1131 NEC我孫子事業場内
日本ポールドウィン(株)	108-0023	東京都港区芝浦4-9-25 芝浦スクエアビル11階
パナソニックコネク(株)	224-8539	神奈川県横浜市都筑区佐江戸町600番地
株フジオー産業	115-0043	東京都北区神谷2-6-8
富士通(株)	212-0014	神奈川県川崎市幸区大宮町1-5 Fujitsu Uvance Kawasaki Tower
富士フィルムグラフィックソリューションズ(株)	106-0031	東京都港区西麻布2-26-30富士フィルム西麻布ビル
富士薬品工業(株)	176-0012	東京都練馬区豊玉北3-14-10
HOUSEI(株)	162-0821	東京都新宿区津久戸町1-8 神楽坂AKビル9階
三菱重工機械システム(株)	729-0393	広島県三原市糸崎南1-1-1
三菱製紙(株)	130-0026	東京都墨田区両国2-10-14両国シティコア
明和ゴム工業(株)	146-0092	東京都大田区下丸子2-27-20